かわ

2025.10.1

vol.267

Contents

わがまちのかわ（赤村）・・・・・・・・ P1～P2
河川愛護街頭キャンペーン・・・・・・ P3～P4
河川功労者表彰・・・・・・・・・・・・ P5～P6
ふくおか水辺の安全講座・・・・・・・・・・P7
ダムのはたらきについて・・・・・・・・・・P8
ふくおかの身近な川といきものを知ろう
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9～P10
河川協会からのお知らせ・・・・・・・・・ P11

花乱の滝
（福岡市早良区）

郷土ふるさと　福岡の河川を知る

わがまちのかわ

第59回 赤 村

今川水系２級河川今川（源じいの森付近）

赤村の概要

赤村は福岡県東部に位置する、人口2800人ほどの自然美あふれる農村です。全国的にもたいへん珍しい「色のみ」の名の自治体である赤村は、明治22年の誕生以降、一度も市町村合併を経験していません。戦前～戦後期には「日本一の採炭地」として栄え、石炭産業の隆盛期を迎えていた筑豊地方にありながらも赤村には炭鉱がありませんでした。大規模な開発事業が行われなかったことから、日本の原風景たる農村の景観が現在でも広がっています。

赤村を代表する河川は村内中央部を北進し東部へと流れ出る二級河川今川です。村南部に位置する添田町の英彦山を源流とし、赤村～みやこ町～行橋市を経由して周防灘へと注いでいます。古くから米づくりが盛んな赤村では、今川に沿う形で広大な田んぼが広っており、川の水を利用した灌漑農業が行われています。福岡県産米「夢つくし」を中心に稲作が行われ、田植えの時期には新緑に、稲刈りの時期には黄金色に色を変え、村を鮮やかに彩ります。生態系の保護活動として京二川漁業協同組合はアユやスッポン等の放流を毎年行っており、美しく豊かな河川環境の維持に努めています。

今川の上流に位置する支流・十津川は透き通った清流で、５月下旬～６月初頭にかけ天然のゲンジボタルが飛び交います。赤村は「ほたる保護条例」を定めており、ゲンジボタルの無断捕獲禁止や生態に悪影響が生じる開発の禁止など、村民挙げて環境保全に取り組んでいます。

今川の下流には赤村を代表する観光施設「源じいの森」があります。地下1500メートルからくみ上げる天然温泉や、県内最大級の面積を有するキャンプ場、赤村産の米や野菜を用いた料理を提供するレストランなどを有した複合施設であり、年間約16万人が訪れています。キャンプ場内に今川が流れており、春には桜、夏には水遊び、秋には紅葉、冬には雪化粧と、四季折々の姿で訪れるキャンパーたちを迎えます。

また温泉の入湯税は浄化槽設置費用の補助に充てられています。豊かな環境で生まれる「食」や「癒し」を求めて観光客が訪れ、入湯税を元に環境を守る浄化槽の設置を推進し、美しい自然を求めまた人がやってくる・・・。このような循環型の村づくりが行われています。

赤村を縦断する今川は村民の暮らしに密接にかかわっており、生活用水として、農業用水として、また豊かな景観を生み出す憩いの場として、欠かせない河川となっています。

「今川公園の桜」

村内中域に位置する村民憩いの場「今川公園」。川沿いに桜が植えられており、３月末～４月初頭にかけ多くの花見客が訪れる花見スポットとなっています。

「源じいの森」

県下屈指の敷地面積を誇るキャンプ場や、プライベートサウナを楽しめる天然温泉、赤村の素材を用いたレストランが自慢の観光スポットです。ゆったりとした余暇時間を楽しめます。

「赤村特産物センター」

村の農家が育てた採れたて野菜やお土産品を販売する農産物直売所です。パン屋や餅加工所も併設しており、できたてを販売しています。屋外には真っ赤な装飾のトイレや田畑を見渡せる休憩所を完備しています。

「ゲンジボタル」

５月末～６月初頭にかけゲンジボタルが飛び交います。人里離れた清流に生息しており、幻想的な風景を一目見ようと多くの観賞客が訪れます。源じいの森を起点に「ほたる観賞会」も実施しています。

「岩石山の『落ちない岩』」

村南部に位置し、その名の通り巨石が点在している岩石山。400mほどの低山でトレッキングに最適です。登山ルート上に見受けられる不思議な「落ちない岩」は静かな受験生の祈願スポットです。

「赤村トロッコ油須原線」

「幻の未成線」油須原線の跡地を走る観光トロッコです。赤駅前～野原越トンネル（大任町境）の往復3.6キロの道のりを、冬季を除く月１回、30分間隔で運行しています。トンネル内ではコウモリが飛び交います。

街頭広報キャンペーン

河川環境の保全と県民生活の中に占めている河川の重要性を啓発し、
河川を安全に適切に利用、また、管理していく機運を高めるため、
広く県民に向け、7月を河川愛護月間とし、各種事業を実施しています。
この河川愛護事業の一環として、
県内を福岡・北九州・筑豊・筑後の4つの地域に分け、
街頭でちらし等の配布、懸垂幕・ポスターの掲示等、
河川愛護意識の啓発活動を行っています。

	実施日	実施場所	配布物品
福岡ブロック	7月23日(水)	福岡市天神周辺	河川愛護月間チラシ うちわ ポケットティッシュ
北九州ブロック	7月17日(木)	北九州市小倉駅	ポケットティッシュ
筑豊ブロック	7月17日(木)	ゆめタウン飯塚	ポケットティッシュ
筑後ブロック	7月中	筑後川防災施設 「くるめウス」	うちわ

※筑後ブロックは筑後川防災施設「くるめウス」に配布物品を設置

配布物品

河川愛護月間チラシ

うちわ

ポケットティッシュ

活動の様子

河川功労者表彰

令和７年７月２８日（月）、福岡県河川協会通常総会の席上において、河川功労者の表彰式が行われました。

河川功労者とは、河川の機能保全、改善のために力を尽くし、その功績が顕著な個人並びに団体を、各市町村、各県土整備事務所からの推薦によって決定しています。

令和７年度に、河川功労者として福岡県河川協会長表彰を受賞されたのは、３名７団体の方々でした。

福岡県河川協会長表彰

○個人

◆中園 正彦 様
（久留米市）
対象河川：筑後川

◆橋本 等 様
（久留米市）
対象河川：筑後川

◆田原 一男 様
（遠賀郡岡垣町）
対象河川：矢矧川

○団体

◆原西金屑川を守る会 様
（福岡市）
対象河川：金屑川

◆大牟田わくわくステーション・草の手・草木町をきれいにする会 様
（大牟田市）
対象河川：堂面川

◆環境美化協力会（原油山川を守る会） 様
（福岡市）
対象河川：油山川

◆白木川を守る会 様
（八女市）
対象河川：白木川

◆西堂　川原川河川を守る会 様
（糸島市）
対象河川：川原川

◆市瀬割子川ほたる保存会 様
（北九州市）
対象河川：割子川

◆槻田川を守る会 様
（北九州市）
対象河川：槻田川

～河川愛護団体の皆様へお知らせ～

「リモコン式草刈り機」の貸出を開始します！

福岡県では、河川愛護団体の皆様の負担軽減のため、10月1日（水）からリモコン式草刈り機の貸し出しを開始しました！
詳細については、お近くの県土整備事務所へお問い合わせください。

○導入する草刈り機
【ラジコン草刈り機オーレックスパイダーモアーＲＣ】
・全長970mm×幅915mm×高さ580mm
・重量138kg　　※軽トラックに積載可能！
・刈幅530mm、作業能率1.4反/時（直進時）
・最大傾斜45°対応

○配備する県土整備事務所
久留米、朝倉、飯塚、京築（行橋支所）　　※配備事務所は順次追加予定です！

令和7年度

「ふくおか水辺の安全講座」開催

川は人々の生活に使われたり、心に安らぎを与えたりする場である一方で、急激な増水や流れが激しい場所など様々な危険が潜んでいます。

福岡県では、平成20年に兵庫県都賀川で発生した水難事故を受けて、小中学生を対象とした「ふくおか水辺の安全講座」を平成21年度から開催しており、今年度は6箇所で実施いたしました。

●開催日と会場

7月下旬から8月上旬にかけて、下記6箇所で「ふくおか水辺の安全講座」を開催しました。

No	開催日	会　場	河川名
1	7月27日（日）	福津市南町公民館（福津市西福間3-39-1）	西郷川
2	7月28日（月）	古賀市立古賀西小学校体育館（古賀市天神7-4-1）	大根川
3	7月30日（水）	八女市立黒木西小学校（八女市黒木町本分38-1）	矢部川
4	8月　2日（土）	糸島市川付公民館（糸島市川付796-3）	長野川
5	8月　4日（月）	福岡市立横手中学校（福岡市南区横手4-16-1）	那珂川
6	8月　6日（水）	北九州市立今町市民センター（北九州市小倉北区今町3-19-2）	紫川

●開催状況

講座では、ライフジャケットやヘルメットを着用し、実際に川でロープを使ったレスキュー方法などを体験したり、川の生き物調査やカヌー乗りを体験したりしながら、川で安全に遊ぶ方法を学びました。

また、屋内では動画を観て、川の危険箇所を学習しました。

●開催講座紹介

レスキューロープを体験しました。

浮いて川の流れを体験しました。
（浮いて待つ）

動画を観て川の危険箇所を学習しました。

カヌーを体験しました。

いろいろな生き物を捕まえ観察しました。

ダムのはたらきについて 洪水調節

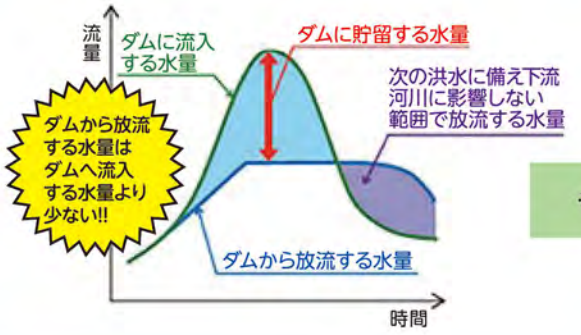
ダムには河川環境の保全や少雨時の水の補給など様々な役割があります。そのなかで今回は大雨が降った際のダムのはたらき（洪水調節）について紹介します。

● 水害を軽減する（洪水調節）

大雨が降ると、ダムは大量に流れ込む水の一部を一時的に貯め込みます。そして、ダムから川に放流する水の量を調節することで、下流河川の水位上昇を抑え、洪水による被害を軽減・防止します。この一連の操作を「洪水調節」と呼びます。ダムからの放流量を増やす場合などは、警報車や警報局からのサイレン、スピーカー放送などでお知らせいたします。

下流河川へ一度に大量の水を流さないよう、ダムの放流量を調節しています。

洪水時におけるダムの働き（イメージ）



ダムがあることによる下流河川への効果イメージ

ダムに水を貯めることで下流河川の水位上昇を防ぎます。

● 緊急放流

想定を超えるような異常な大雨の際には、ダムが貯められる量以上の水が流れ込むことがあります。洪水調節を行っていてもダムへの流入が増え続けると、ダムの水位は上昇し続けます。ダムの容量を超え、満水に近づいた場合は、ダムに入ってくる水の量とほぼ同じ量を放流することがあります。これを「異常洪水時防災操作（緊急放流）」と呼びます。誤解されがちですが、ダムからの放流量が、ダムに入ってくる水の量を超えることはありません。

異常洪水時防災操作（緊急放流）により、一時的に川の水位が高くなることがあるため、放流前にホームページ等でお知らせします。

緊急放流時のイメージ

ふくおかの身近な川といきものを知ろう！

日比野（ひびの）友亮（ゆうすけ）

ハカタスジシマドジョウとチュウガタスジシマドジョウ

福岡県は全国でも類を見ない「ドジョウ県」です。県内には外来種のカラドジョウを除いて全６種類ものドジョウが自然分布しています。本県の多様性を押し上げているのが「３つの地理」であり、豊前地区にだけに分布するチュウガタスジシマドジョウや、有明海集水域に分布するアリアケスジシマドジョウという風に、いろいろなシマドジョウがパッチワークのような分布域を形成しています。

ハカタスジシマドジョウは福岡県だけに生息する小型のシマドジョウです。ごく短い繁殖期を除けば、雌雄ともに体の点列模様がはっきりしていてよく目立ちます。ヤマトシマドジョウと同所的に出現することもありますが、尾ビレの付け根にある黒点の背側のものだけがはっきりしている（ヤマトシマドジョウでは背腹双方が明瞭）ことや、体色がやや淡い、頭が少し丸みを帯びるなどのちがいがあります。繁殖期になるとオスの体側の点列は一直線につながり、文字通り筋縞へ変わります。流れのゆるやかな場所の細かい砂泥に潜って暮らしていますが、完全な泥でもダメ、粗い砂も好みではないようで、底質の好みにうるさい魚のようです。

ハカタスジシマドジョウは、本県に産するドジョウとしてはもっとも局所に分布しています。後述するように元々は博多湾流入河川に広く分布していたと考えられますが、現在は福岡市および糟屋町にまたがる多々良川と室見川の２つの水系に局限されています。生息区間もきわめて狭く、多々良川ではせいぜい数百m、室見川でも2kmに満たない範囲でしか見られませんので、まさしく幻のドジョウです。2019年に、種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）に基づく「国内希少野生動植物種」に指定され、捕獲、譲渡、引渡し等が禁止されています。私が多々良川の生息地を訪れた2018年の初夏には、３人がかりで３時間ほど網を振るっても１匹も採れず、もはや絶滅寸前か・・・？と思われる状況にありました。2019年の指定後すぐに生息地周辺で重機による河道の攪乱と、次いでワンドの造成が行われたことが奏功したのか、2022年と2023年の繁殖期には計1時間程度の調査で雌雄合わせて10個体程度が採集でき、少なくともきわめて危機的な状況は脱しつつあることを感じました。室見川では、周辺住民からの浚渫要望が強く、過剰にも思える浚渫によってハカタスジシマドジョウが減少してきましたが、10年ほど前からは本種が繁殖や越冬に利用する「水際」の部分を残して浚渫する工法が採用されるようになり、こちらもただちに絶滅するような状況は脱しているように思えます。

とは言え、いまだに局所的な分布状態にあることには変わりはなく、例えば豪雨災害などの突発的なアクシデントで絶滅する危険性は高いままです。本種に対しては2022年に国土交通省

ハカタスジシマドジョウの繁殖期のオス（上）とメス（下）。
オスは繁殖期が過ぎるとメスと同じく点列模様に変化する。

配慮型の浚渫によって辛くも息を吹き返した多々良川。
浚渫を伴う人為的な攪乱が生物を救うこともある。

と環境省の連名での保護増殖計画が公表され、生息状況の調査や、環境の維持・改善、飼育下での個体数維持が図られていますが、今のところ、生息範囲が拡大（正確には回復と表現すべきでしょう）しているわけではありません。室見川では1950年代に現在の生息範囲よりもかなり下流の旧筑肥線鉄橋（現筑肥橋）付近で採集されたハカタスジシマドジョウの標本が残されていますし、つい最近まで、本種は那珂川や宇美川にも生息していました。木村清朗博士の野帳にみられる記載から、御笠川にも生息していた可能性が濃厚です。このことを踏まえると、ハカタスジシマドジョウは本来、博多湾流入河川全体にいたはずです。九州大学には、1970年代に多々良川でたった15分間で採集されたという、100個体を超えるハカタスジシマドジョウの標本が残されています。現在の多々良川では丸一日かかっても到底採集できない数ですが、この標本の存在が、実際に存在した豊かさの証拠を今に残しています。少なくなった後の状態を基準にするのではなく、本来の姿を念頭に、自然再興を図っていくべきではないでしょうか。

ハカタスジシマドジョウに次いで、本県で絶滅危機が増大しているのがチュウガタスジシマドジョウです。チュウガタスジシマドジョウは瀬戸内海に流入する近畿、中国、四国にも分布していますが、九州では大分県駅館川以北の豊前海に流れ込む一部の水系に限られています（大分県ではすでに絶滅）。福岡県におけるチュウガタスジシマドジョウは、ギギなどと並んで瀬戸内海を介した旧来の淡水生物の移動の生き証人です。一方で、亜種全体としての分布範囲が他のスジシマドジョウ類に比べて広いために、いずれの府県でも保全措置はとられていません。福岡県では長峡川、今川、祓川、城井川の４河川に分布していましたが、長峡川ではすでに全く見られなくなっています。祓川では本種の確認できる範囲はすでに200m以下にまで縮小していて、地域絶滅へのカウントダウンが始まっています。こうした縮小の原因のひとつに浚渫があります。浚渫自体は河川の洪水を防ぎ、我々の暮らしを守る意味でも必要なことですが、川全体をなでるように平たく浚渫してしまうと、川の中の複雑な水の流れが失われ、本種が産卵に利用する水際の植物帯も消えてしまいます。川幅の問題等があるため室見川と全く同じことはできないでしょうが、少なくとも本種が多数みられる重点区域を把握したうえで、産卵や生息に利用できる環境を川の中に残していくことが不可欠です。今川水系では今も複数か所でチュウガタスジシマドジョウが見られますが、平坦な浚渫が繰り返されているため個体数は劇的に減っています。これだけ減ってしまっても、「種の保存法指定種でも、県指定の希少野生動植物種でもない」がために、その存続に配慮される可能性がほとんどないことは残念でなりません。絶滅を防ぐという意味ではこのような法的な枠組みに指定されるような状況に陥る前に対策を取っていった方が安心で、長期的に見れば経済的でもあるはずです。

宇美川の生息地では浚渫によって絶滅した。今では再び洲ができているがハカタスジシマドジョウはいない。

九州大学に残されているハカタスジシマドジョウの標本。当時の豊富な個体数が想像できる。

チュウガタスジシマドジョウはオスメスともに筋縞模様で、非繁殖期でも点列模様に変化しない。

日比野（ひびの） 友亮（ゆうすけ）
－ YUSUKE HIBINO －

●北九州市立自然史・歴史博物館　学芸員　●九州大学総合研究博物館　協力研究員　●日本魚類学会　編集委員
主な著書／■魚類　福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024（2025）
■緑の火山島 口永良部島の魚類図鑑（2017）（共編）

河川協会からのお知らせ

令和７年度　福岡県河川協会通常総会

福岡県河川協会通常総会が、7月28日(月)福岡市内の福岡リーセントホテルにおいて開催されました。市町村長等61名の出席のもと令和7年度予算案等について審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。

また、福岡県では「平成29年7月九州北部豪雨」以降、度重なる豪雨災害に見舞われ、一昨年も甚大な被害が発生しているため、国等への要望決議案が採択され、後日、国土交通省及び地元選出国会議員の方々に陳情・要望することとなりました。

その後、河川功労者の表彰式が行われ、最後に福岡県県土整備部河川管理課長から河川事業について説明が行われました。

「第22回　ふくおか水もり自慢！」のおしらせ

平成16年から毎年開催しており、今年度で22回目を迎えます。

今年度は、筑後地区で開催予定です！

皆様のご参加をお待ちしております！

詳細な内容が決まりましたら、福岡県県土整備部河川整備課のHPに掲載します。

(URL：http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4800724/)

第21回 ふくおか川の大掃除を実施します！
～県民参加による河川美化活動～

福岡県では、毎年10月をクリーンリバー推進期間としており、第4日曜日を統一活動日と定め、県内で河川の一斉清掃を呼びかけています。

第21回ふくおか川の大掃除は、下記のとおり実施します。

日　時　令和7年10月26日(日曜日)

実施場所　釣川水系山田川(宗像市)沿いの遊歩道(くりえいと宗像横)

お問合せ　参加を希望される方は、福岡県県土整備部河川管理課管理係までお問合せください。

TEL：092-643-3666　FAX：092-643-3669

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kawa.html

編集後記

九州北部では過去最も早い梅雨明けで猛暑の長い夏となり、群馬県伊勢崎市では41.8°と国内最高気温が更新されるなど、経験したことのない暑さが続きました。

一方で県内では宗像市、福津市などを中心に、さらに熊本県、鹿児島県、東北地方など全国で集中豪雨に見舞われ、大規模な被害が発生しました。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りします。

(植村・北川)

◆STAFF

発行・編集　福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川管理課内)
〒812-8577　福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669

企　　画　大商印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ

https://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/